

学 校 教 育 目 標	自主 ・ 自律 ・ 創造
目 指 す 学 校 像	校歌の一節にもある「花咲く未来」を実現するために、「自主・自律・創造」の校訓のもと、生徒の「生きる力」を育むことで、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって社会に貢献できる人材を育成します。
重 点 目 標	1 S S H指定校としての取組を起点に、生徒一人ひとりに高い「志」を育んで、第 一志望の進路実現を支援する。 2 探究的な授業を通して、自ら課題を発見し解決する主体的な学習態度を育て、社会のリーダーとなる確かな学力を身に付けさせる。 3 北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。 4 地域の理数教育拠点校として活動すると同時に、ユネスコスクール認定校としての取組を展開して、国際社会へ開かれた学校に発展させる。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和8年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○SSH 指定校として教育課程を工夫し、学校設定科目を設置してきた「STEAMS TIME」が浸透し、教員全体で指導を行っている。 ○R7 は、321 名中 267 名が大学、1 名が短大、1 名は防衛大学校、6 名が専門学校へ進学し、2 名が就職、43 名が進学準備、1 名が就職準備に入った。 【課題】 ○独自の教育課程およびフィールドワーク、行事が、進路実現にどのような役割を果たしているかの検証が不十分である。 ○増加傾向にある学校推薦型や総合選抜型に対して、一般選抜の枠が減少している。総合型選抜や学校推薦型選抜にも対応できるよう、多面的な指導を行っていく。	学校設定科目やSSH 主催のフィールドワークやイベントを生徒の進路実現に資する。	①進路実現に加え、科学に対する興味・関心を引き出すようなフィールドワークやイベントを企画する。 ②現状と課題を把握するためのアンケートを年度末に行う。	①行事の応募数が昨年度を超えたか。 ②アンケート結果において「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が 80%を超えたか。				
		高い「志」の育成と進路実現を図る。	①生徒の「志」を高めるため、各学年・各教科・進路指導部による組織的・計画的なキャリア教育を実施する。 ② 進路説明会や進路講演会、進路保護者会を実施し、生徒や保護者へ情報を提供し、進路への生徒の意識を高める。	① LHRや総合的な探究の時間等を利用して、学年に応じた進路行事を実施できたか。 ②指導と評価の一体化が進展したか。				
2	【現状】 ○各教科における観点別評価規準及びルーブリックの作成が定着してきた。 【課題】 ○「STEAMS TIME」における教科横断型課題研究の内容の充実・効果的な授業展開が求められる。 ○観点別評価規準、ルーブリックの作成や評価方法など、教科を横断して研究を進める必要がある。	生徒の学力向上に向けて全職員が取り組む。	①「STEAMS TIME」において、生徒が主体的に学習課題を見つけ、論理的思考を身につけ、課題解決力を身につけられるよう授業を展開する。 ②観点別評価における評価規準の立て方、保護者や生徒への周知の方法等について各教科や教職員全体で研究を進める。	①「STEAMS TIME I」「STEAMS TIME II」において、論理的に仮説を立て、それに基づいた研究計画が作成されたか。班内分担や共同作業が円滑に行われ、充実した発表ができたか。 ②授業支援ソフトやテレビ会議アプリを使い、新しい形の教育を効果的に提供できたか。				
3	【現状】 ○「自主」「自律」の校訓のもと多くの生徒は落ち着いた高校生活を送っている。 ○自転車通学、交通機関利用通学ともに多くの生徒は安全に登下校をしている。 【課題】 ○教育相談の件数が、増加傾向のため、カウンセラーに相談しやすい環境作り、早期に相談に来られるよう情報発信と体制づくりを進めていく。 ○事故件数を減らし、自転車走行中のヘルメット着用率 100%を目標とする。	安心な高校生活	①教育相談委員会を各学期定期的に実施する。 ②スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、教職員、保護者間で情報交換を密にする。	①教育相談委員会を各学期実施できたか。 ②関係者間で情報を密にし、共有することができたか。				
		安全な高校生活	①登下校マナーアップ・駐輪マナーアップ・ヘルメット着用点検等を風紀委員会が行う。 ②委員会活動を教職員がサポートする体制を整える。	①登下校・駐輪のマナーおよびヘルメット着用が図れたか。 ②教職員がしっかりサポートできたか。				
4	【現状】 ○地域の理数拠点校としてイベントを開催し、交流が行われている。 ○海外交流事業が順調に展開されている。 【課題】 ○生徒の資質向上に役立っているか、地域のニーズと本校が提供しているものが一致しているのかについて検証が不十分である。 ○国際交流委員会を中心に関係各所との業務連携をより深化させる。	小・中学生及び保護者を中心とした地域の要望に対応する。	①小学生サイエンス教室やASEP の内容を再考し、開催する。 ②近隣の学校や地域住民の意見を、学校運営協議会などを通して広く集める。	①小学生サイエンス教室やASEP の応募数が昨年を超えたか。 ②アンケートなどでどのようなイベントを開催すべきか意見を集めることができたか。				
		国際社会へ開かれた学校づくりをするために、国際交流を学校全体の取組とする。	①海外派遣・留学生受入を実施する際に複数分掌で対応し、潤滑な運営と内容の充実を図る。 ②海外との交流について、継続的な関係を築き学校全体で取組を推進する。また、交流経験のある海外の学校との連携体制を整備し、本校を中心とした国際交流事業の基盤を築く。	①交流事業において、参加した生徒が満足や達成感を感じ、成果をあげられる計画になっているか。 ②海外連携等を関係各所と連携し、組織的かつ協力的に進められたか。				